

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

大村しげのこだわり：
ものの収納場所と収納用具から

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横川, 公子 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15021/00001445 |

3. 大村しげのこだわり

—ものの収納場所と収納用具から—

横川 公子

1 はじめに

本稿ではものの収納用具と在り場所に注目したい。コレクションの調査では、おびただしい量の収納のための仕掛・装置が整理できた。但しものの調査は、既に現場を離れたところで行われ、しかも、それらの置き場所に関する、元の所有者による具体的な言説は多くはない。そこで以下では、コレクションの調査を参照して、収納用具とその置き場所を再現することを試み、それを拠り所とした。つまり調査データを詳細に整理すれば、ものが置かれていた場所がわかり、ある種のもののまとまりが観察されること、また関係者の証言によって把握できた、ものの大まかな位置の占め方を参考にした。その結果、ものを仕切り、在り場所を支えている仕掛や装置としての収納用具によって、もののまとまり方にいくらかの傾向があることが明らかになった。

実際、われわれの暮らしでは、意識的にも無意識的にもものの置き方にこだわりがあるわけで、そういったまとまりが何かの原因で少しでもずれたりすると、ものを探し出すのに苦労するという経験がある。それが家族や集団で共有しているものだったりすると、互いに苛立ちの種になるということになる。個人的なこだわりばかりでなく一緒に暮らす人間の間には、ものが占める場所に暗黙のうちに了解があって、ものの利用の仕方やそれにまつわる規則を判別・対応し、暮らしの営みやスムーズに展開できるようになっているのである。本稿では、そうした暮らしのなかにおけるものの分類の仕方や家族で共有しているもののまとまり方から、暮らし方や暮らしの規則のような型を具体的に考察しようとしたものである。

再度付け加えると、われわれの暮らしの中でのものは、不注意にその辺に置かれたりすることもあるわけだが、それに対して収納用具や収納場所は、収納のための仕掛や道具・装置であり、それらを利用するということは、かなり意図的な収納の行為を伴う。またそれによって客観的に収納ということが確認できる。従って元の所有者の収納の意図について、言説の上では確かめられないにしても、実際の収納場所や装置によってものが仕分けられていることで、客観性の高い収納の仕方を読みとることができると考えたい。

2 ものの在り場所に関する大村しげの文章

大村しげの描く逸話は、ほとんどすべてが実体験風で表現も実感に根ざしている。そのために文章で表されていることがらは、大村しげの自画像的で、「わたし」で始まる典型的な私小説風の表現になっている。読者にとっては、描かれていることがすべて、大村しげの実像であるかのように思えてくる。実際、文中で自らの信条や真情を吐露することが少なくない。そこには、大村しげの身に付いた思考と感情、感性が如実に表現されている。

そこで、大村しげが、ものの在り場所に関する真情を吐露したと思われる文章を抜き書きしてみる。実はこうした場所に関する記述は少なく、管見によれば、以下の勝手元に関する文章と後述する数カ所のみである。

わが家の勝手元は、まだ昔どおりで、大きいおくどさんがでんと構えている。(中略)これは明治、大正のころとおんなじ様式やから、彼女が不思議がるのも無理はない。(大村 1997: 6-7)

わたしとしては、昔のままのお勝手で、なんの不自由もないけれど、若い方には文明の利器らしいものが一つもないということは、やっぱりふしぎやったに違いない。(大村 1997: 7)

おくどさんは邪魔なだけで、無用の長物でさえある。それでもわたしは、おくどさんの上に神棚があって、そこに供えてある荒神松を毎月お朔日に取り替えるという暮らしを、だいにしたいのである。(大村 1997: 8)

昔ながらの通り庭というのは、わが家だけになっていて、まあ、自分で得心しているのやから、よしとしている。(大村 1997: 8)

勝手元は、大村しげが「もの書き」に徹してみようと思いついたときの拠点で、勝手元への関心は必然的に強く、また意図的なものであった。20世紀も半ばを過ぎた頃の京都では、すでに昔風になったかまど、「おくどさん」がでんと構えている勝手元が、彼女の「もの書き」としての出発点であり拠り所である¹⁾。以後、取り上げられた多様な対象は、やや昔風の勝手元に象徴される暮らしの価値と比較されることになる。かまどのある勝手元に根ざす、身に付いた伝統的視座が貫かれるのである。

ある日、布のお礼というて、小さい袋物をいっぱいいただいた。小銭入れにしたいような、化粧品入にしたいような小袋である。(中略)これはわたしの羽織やった、これは母の大事な着物やったなあと、そこにはいっぱい思い出が詰まっている。(中略)私の手で眠っていた端布が生かされていることが、むしろにうれしい。

「世の中に不要なものはないにもあらへん。自分にいらんもんでも、人さんにはそれが入用かも知れへんしな」

母のいうていたことにも、一理はあると思うて、わたしはますます不用品に埋まって暮らすことになる。(大村 1993: 42)

大村しげの文章は、落としどころが決まっている。諸事、自分の見聞や身近な家族への追体験から出発し、事の裏表を、家族の生活やせいぜい友人や知人から得た見聞の中で検討する。そこで解決の糸口や暮らしの知恵を見だし、納得と肯定に結びつける。その納得を再度敷衍して、自分自身の姿に重ねることで落ち着き所を手に入れる。いわば、身近な暮らしを自らの納得で肯定的に捉えるという自画自賛的な「内側からの視座」が明快である。

引用の文章は、不要になった裂で小袋が作られた。その裂には思い出がいっぱい詰まっていて、不要品の裂が活かされていることに充実感があるという。このことは、母親がものには不要品はないのだと言っていたことによって裏打ちされ、それは大村しげの考えや気持ちを代弁し、自分が不要品を溜め続けるという行為が肯定される。小袋や裂は、大村しげ自身のものを溜め込むことに対する肯定の徴となっているのだ。以上の文章には、再度言えば自画自賛の構造が認められる。この自画自賛が、大村しげ1人の固有な感慨ではなく、一定の人々の共感を得ているところに、大村しげの洞察力の確かさやコモンセンスが示唆されている。そして、それはより多くの人々の共感を得られる伝統的な視座でもある。ものを溜め込み、不用品の山に囲まれていることに対するいいわけは、いろいろな文章で述べられている。

大村しげの文章では、場所に関する関心は、改めて俎上に上げられることは少なく、意識下の事柄として手足や身体感覚に重なるような身近なものとの関係が取り上げられることが多い。上述の文章では、端切れとそれから作られた小袋が、手の中で慈しまれている様子とともに、端切れをはじめとして不用品に埋まって暮らしている自身の暮らしの自己弁護と肯定の意識が、端的に示されている。

無論、「自画自賛の構造」は、対概念として「自己否定の構造」をも含み得るのであるが、大村しげによって取り上げられた主題に、自己否定の視座は見当たらないように思う。電化や家事の省力化を推進する近代化を必ずしも肯定せず、身についた「やや昔風の勝手元に象徴される暮らしの価値」を大事にする大村しげの主張は明快である。いずれにせよ、これらの自己意識を表明する立場は、生活現場からの発信を旨とする「内側からの視座」に欠かせない視点となっている²⁾。

ところで居場所やものの空間的な位置に関する記述はわずかしかないが、家具やその置き場所に対する文章には、次のような項目が含まれる。管見ながら触れておきたい。

たんすの引き出しが、一厘の狂いもなしに、きちっとできると、引出しをしめるときに、中の空気の逃げ場がのうて、別の引出しを押し出してくる。そうになったら腕も一人前である。(中略) 目のしまった、会津の桐がやっぱりようて、一本百万円以上もするのにな、注文で追われる。(中略)

このごろ、たんすの引出しが少うしずつ浅うなってきた。(中略) 昔の引出しなら、十枚入れてもまだ上がすいているけれど、このごろのは、半分の枚数でいっぱいになる。それに、引出しが浅いと、きもの出し入れがしやすい利点もある。けれど、わたしは、きものを仕立てたら、一年はたんすの底敷きにして、おしをかけてからやないと、着にくいので、深い引出しでないと都合が悪い。(大村 1974b: 164-167)

京ダンスに見られるすぐれた職人技とその使い勝手に言及するが、その住まいにおける置き場所については触れられていない。

部屋のすみに、いつもじゃまにならんように置いてある木製の足つき。ちょうど、くらかけの足のところの、四方を囲い、底を張ったようなもので、足つぎの下はくず入れになっている。わたしはそこへ包装用の取り外した紐をいれることにした。(中略) この足つきに乗って、棚のものを下ろす。そして、柱時計にねじをかけるときも、この台の上に乗っていた。思えば、わたしの手の届かないところを、この足つきが補うてくれるのである。(中略) 先日、台所の畳を替えて、この足つきを置いておいたら、その下だけがいままで青かった。(大村 1987: 181)

長火鉢の四つの引出しには、火鉢の中に納まっている銅壺の上を掃く小さいしゅろのほうきとか、耳かきとか、いろいろ小物が入っている。そして、猫板の下はお湯飲みを入れるようになっていて、その底にも小さいふきんが敷いてあった。それで、母はふきんを取り替えるとき、その古いほうをきれいに洗うて、底へ敷くようにしていた。(大村 1993: 44)

昔、長火鉢に火が起こっていたころ、いつでもお湯がわいていた。そして夜寝る前には、大きい火は消壺で消してしまい、小さいくずの火が残っていた。(大村 1993: 81)

台所にでんとすえたある長火鉢は、もう使うこともうなつたのに、これがないと部屋の格好が付かないのである。わたしの心のよりどころやろうか。(中略) 長火鉢はふちがない古い形で、ふちがついているのは新しいのやと。わたしはこのふちを飯台がわりにして、朝ご飯を食べる。(大村 1987: 187)

足つき(踏み台)や長火鉢は、決まり切った位置を占めるもので、普段は格別に意識されることがない。ふと気付くとそこだけ畳が真新しく、いつもの場所に置かれていないと格好がつかないというように、決まり切った在り場所を占め、存在感もある。

建替えというのは、戸障子をはずして葭戸に替えたり、すだれを吊ったりすることで、それをすますと家の中はいっぺんに夏になる。(大村 1988: 69)

七月に入ると、なんせ夏を少しでも涼しいように、家の模様替えをする。ふすまや障子をはずして葭戸やすだれに替え、のれんや座布団も夏物にして、涼しげにする。実際、葭戸にすると、すーすーと風通しがよくて、暑さがやわらぐ。そして、部屋には簾むしろやらあじろを敷くと、足の裏がひいやりとして、涼しい。(大村 1988: 203-204)

十二月は掃除月。(中略)手始めは押入れやら水屋などの大きいものから、鏡台の引出しまで、こまごまと整理しながらの掃除である。(中略)つぎに、さい払いの用意もしとかならん。ものを払うのに、先のすり切れたものでは使いにくいし、第一ほこりがきれいに落ちない。(中略)やっぱり昔からの絹の裏地のものがよろしいし、私はパンパン、パンパンとやりながら、腹の立つことも忘れてしまう。(中略)花瓶の中を洗うのは、長さ五十センチぐらいの竹の柄のしゅろほうきで、これは花瓶がきれいになる。(中略)

そして、神棚やらおくどさんのまわりを掃くかまほうき。(大村 1988: 145)

建てかえは、気温と湿度が高くて過ごしにくい日本(京都)の夏の合理的な対処方法として、建具をかえて模様替えをすることを描いたもので、暮らし方の解説となっている。暮れの掃除や普段の掃除でも、主に掃除道具や細部の掃除の仕方について記述され、場所についてはわかりきったことだからなのだろう、まったく触れられない。以上のように文章では、いずれも具体的な場所については言及されておらず、ものや家具の置き場所への無関心さが特徴的に浮かび上がってくる。

このことは、足つぎのところで指摘されているように、当たり前の身に付いた暮らしの断面であり、場所の占め方は無意識的に決まりがつけられていることを、むしろ雄弁に示している。ものの在り場所や家具に関しては、ほとんど暮らしの前提とされているのだ。こうしたことは、大村しげ個人の周囲に対する特徴的な関係の仕方なのだろうか。

ものの在り場所は、少なくとも元の所有者にとって言表すまでもないことであるのみならず、極めて私的な領域に属することなので触れるのがはばかられるのか、あるいはさらに、ちょっとやそっとでは解決できないようなこと、つまり収納用具が置かれた住空間の特徴や制約によって、簡単には変更させられないために言及しても仕方がないということがあるのかもしれない。この問題については別項にゆずることにして、ここではいずれにしても、所有者大村しげが、ものや収納用具の在り場所について僅かしか取り上げていないことを確認しておきたい。

3 ものの保持の仕方

それではものは実際どのように場所を占めているのか。

ものを収納しておくためには、多くの装置が使われている。われわれの生活では、ものを収納しておくとき、様々な包みや収納用具に入れておく。そしてそれは、習慣になっていて、ありふれたやりかたである。一体われわれは、実際にどのように収納し、そのことによって何をしようとしてきたのか。そこに、どのような価値付けをしているのか。大村しげコレクション（以下では単にコレクションとする）の場合にも、個々の大小のものが、購入したときの包み紙や手近にあった新聞紙、紙製やナイロン製などの袋、専用や代用・転用の箱などに入れられており、それらがさらに別の袋や箱に入れられたりして収納されていた。それらは、各資料の写真やデータ一覧で確かめられるように、かなり多くのもに共通した収納の仕方である。ものを所有し保持する場合、むき出しにしておくことが何かしら躊躇われたり、念入りに仕舞っておかれたり、何らかの基準で仕分けられたりすることが、ここにはありふれたこととして見てとれるのである。

そこで、ここではどのような収納の様式があるのか、収納の様式を決めている用具にはどのようなものがあるのかについてまず概観したい。表「部屋別収納用具の一覧」（「収納の装置」の項を参照）は、調査で確認できた各部屋別の主要な収納用具を一覧したものである。

コレクションは、民博への搬入時の事情によって、ものと収納用具の居場所が、1階のオモテの間・ナカノマ・オクノマ・ハシリ、地下室、2階というように仕分けられている。したがって収納の装置³⁾に関しても、これらを手掛かりとして各部屋毎に見ている。ただし極一部であるが、住まいのどの場所にあったのかが不明の収納用具もある。

ここでは、個々に包まれたり袋や箱に入れられたりしたものが、さらに大きな収納の用具や仕掛に収められているという部分に注目した。コレクションは、既に収納された状態を解かれ、その多くは輸送用のダンボール箱に入れられていた。そういうことではあるが、ダンボール箱に記された表記によって、どの部屋の、どのような収納用具や装置に入れられていたのかが、かなりの程度に再現できる。また元の所有者が箱に詰めていたのがそのまま持ち込まれたものも少なくない。このことに注目して、個々のものがどのように収納用具に入れられていたのか、その用具や仕掛けはどのようなものであったのかについて、整理を試みた⁴⁾。

4 各部屋の収納用具とその中身

以下では、表に従って、各部屋の収納の状態を再現する。

大村しげは、父母の亡くなったあと、1階で暮らしていた。2階は、殆ど物置状態であり、そこに置かれたものはほぼ使われなかった。父親の亡くなった4ヶ月後から2階オモテに下宿生として同居するようになり、その後7年間をここで過ごしたFさんの証言によって、2階オクノマには何でも入れられており、特に父親の仕出し屋に関するものや身の回り品がおかれていたという。2階オクノマは、納戸のような機能で使われていたのだろう。さらに大村しげ自身が、脳梗塞で倒れたのちにリハビリ生活に切り替えられたとき、たとえば雛人形一式のような不要不急なものは、とりあえず2階に上げられ、そのままになった。従って1階に置かれた用具は、大村しげの暮らしにより多く直結したものと見える。以下では、1階のものを取りあげて、各部屋の収納の装置とその内容を中心に整理してみたい。

4.1 1階オモテの間

1階オモテの間には、表1に示したとおり、35件（収集番号の付けられた空き箱を含めると66件）の収納用具が認められた。そのうち家具といえるものは、父親の仕出し屋時代から使われていた帳筆筒1件のみである。

帳筆筒は、父親の仕出し屋時代から使われていたものだが、「手作りの店 峯」（以下では「峯」と表記する）を開いてから店頭で置かれ、店頭で必要と思われるこまごましたものが入れられていた。また残された写真で、この帳筆筒は、オモテの間を応接空間と店頭とに仕切り、さらに店の飾りを兼用していたことが見て取れる。文具類や包装用と思われる紙類、商品タグ用の小紙片やラベル、「峯」の商品にも含まれる名刺用紙や祝儀用紙も入る。接着剤や画鋏、カーテンの金具のようなメンテナンスや予備に使われる小物が最下段の引出しに入っていた。オモテや店が何種類かのカーテンで仕切られていたことも、カーテン金具が傍らに置かれた理由だろう。なお、ここでカーテンの使用は、特徴的な室内景観をなしている。

オモテには小引出しとレターケースが2つある。小引出しには、書いたり消したりするための文房具や紙類、簡単なメモや記録類、手箒や手鏡などの手許回りの品、糸や指貫、印鑑と印肉、大量の切手シートや切手、はがきやポチ袋など。著作の発行予定表や挨拶状の一部など、大村しげの「もの書き」に関すると思われるものも含まれる。レターケースの中身にも共通するものが見られるが、その5段目に集中して入れられた名刺714点、住所メモ4点は大村しげの「もの書き」としての人的な交流の側面を示唆するものであろう。用途不明の木片や把手は、将来役に立つかもしれないということで取っておいたものかもしれない。再利用の小袋11点と手作りのご祝儀袋

13点、私製はがき3点はともに、大村しげの記述の中で「しまつ」や転用を提唱することに当てはまるものである（大村1987:183-4）。このように見てくると、オモテが大村しげの書斎だったことが小引出しやレターケースの中身に反映していることがわかる。なおこれらはオモテの押入れに入れられていた。

紙箱・ダンボール箱などの箱類は計17件である。革のトランクが1件あり、これには大村しげの執筆した34冊の本と新聞の切り抜きなどがずっしりと収納されていた。

紙袋は6件あり、そのうち4件には、紙製空き箱が大量にまとめて収納されていた。この合計31個の空き箱には、「御帯し免」用の空き箱3件のほか、千代紙や緑・茶・青・臙脂・藍染めなどの和紙が貼られている。いずれ転用して使うために残されたものだろう。

空き箱がある。これはお菓子のきれいな箱で、ほかすのはもったいない。果物の箱は大きいので、千代紙を貼っておくと、物入れになる。（大村1993:167）

と、箱好きの大村しげが文章上でも書いている。実際には「そう思いながら、紙を貼っている間がないので、やっぱり邪魔になる。」（大村1993:167）ということで、紙の貼られていない空き箱は、大抵処分されたものと思われる。

他に籠2件には、花瓶、鉢、ロウソク立て、壺、ぬいぐるみ、和傘、独楽、造花、靴磨きなど、形も大きさ、用途も雑多な品が入れている。耳かき・絆創膏・塗り薬・オブラートなどの救急用品入れに転用された灰皿1件もりっぱな収納用具となっている。それに地図や案内状、葉などを入れた壁掛けが1件ある。壁掛けは柱に掛けられていたが、他の収納用具は、その殆どが押入れに入れられている。押入れには、上述の旅行用の革のトランクも収納されていた。

利用された紙箱の中身はいろいろである。収集番号9693は山本海苔の箱を利用したもので、置物11、玩具6、ぬいぐるみ3、袋3、ペンダントトップ3、人形2、写真2等々、いろいろなものが収納される。9789の箱は、箱の表面に蓋、身ともに小豆色の綸子風の裂が貼ってある古いもので、テスト用紙56、日彰小学校時代の映画会などの連絡文書10、修身や図案、英語のプリントなど授業の記録13、学校のスキー大会に関する記事などの新聞切り抜き11、手紙7他で、大村しげの学校時代の記録が大切に仕舞われていた。10364（鳴門わかめの箱）、10410（格子柄の箱）、10471（文明堂カステラの箱）など大きめの箱3つにはそれぞれ、「色紙」が大量に収納されていた（合計172枚）。さらに、これらの色紙はそれぞれ、ビニール袋か包み紙で包まれている。包み紙には「謹呈」の文字や色紙のタイトルが墨書されるものが一部含まれる。ちなみに172枚の色紙の内容は、大村家の菩提寺でもあり、懇意にしていた岐

岐阜伊自良村（現在は岐阜県山県市伊自良町のちに小倉町となる）の東光寺や京都府八幡の円福寺関係者によって描かれたものである。詳細については、「大村しげコレクションの信仰関係資料」を参照されたい。

ダンボール箱の8件には、表に示すように、厄よけの面や干支のミニチュア置物（9937の箱）、小学校時代の作文集や女学校時代のノート類（9944の箱）、「西陣青年の家」に嘱託勤務したころの関連品、同所の読書サークルの文集など（9954の箱）、小学校時代の教科書類32冊（9962の箱）、幼児からの家族も含めた戦前・戦中の写真とアルバム類（9997の箱）、日本各地の郷土人形や郷土玩具・置物（10012、10055、10069の箱）というように、整然と仕分けられている。ダンボール箱自体は、運送業「ヤマト」や特選富有柿の箱（岐阜県）などを使っている。箱の側面に「小学校教科書」などとフェルトペンで書いたものもある。これらの箱の内容は、小学校、女学校、西陣青年の家の各時期に対応するなど、大村しげの人生の年代毎に整然と仕分けられている。ダンボール箱3箱の郷土人形・郷土玩具は、専用の小さい紙箱に説明書・由来書が付き、さらに包装紙で包んである。つまり購入時の状態がそのまま保持されているものが多い。中には箱自体が土産物の場合もある。

こうしてみると、1階オモテの間でもっとも多い収納用具は、紙箱・ダンボール箱であり、そのほとんどが空き箱を転用している。これらの箱は、様々なものをひとまとまりに仕分けるための便利な収納用具として使われている。収集番号9693の山本海苔の箱には、袋物やお守り、ぬいぐるみのマスコット、置物、玩具などが入れられ、中身の間で共通項を見いだすのが困難で、あえていえば、この箱に入っているということで、同時期に同一場所を占めていたという共通性に意味があるかもしれないというものもある。書類入れのための紙箱が、既成の収納文具として市販されていることを考え合わせると、こうしたものの整理の仕方はよく行われてきた方法であろう。オモテの間は、大村しげの書斎を兼ねた仕事場でもあったから、主として事務用品や記録・資料類について、箱による実務的な分別が行われていたといえるようだ。とりわけ幼児から学校時代、父母の庇護の元で暮らしていた戦前までの時期のものが、整然とまとめられていたことは印象的である。

ところで、これらの整理されたものは、戦後の郷土人形や郷土玩具の収集品とともに、大村しげの年代毎のアイデンティティの拠り所となった内容を示唆するものではなからうか。小学校時代からの学校における提出物や写真などの記録類、旅の記念の郷土玩具、西陣青年の家や菩提寺とのかかわりをしめすものなど、内容は、大村しげ自身が人生の節目節目を確かめることができるようになっている。幼児期のものについては、母親が整理したものを受継いでいると思われるが、大村しげ自身が、こうしたものを整理整頓して保持していたことには、一定の意図があったのではなからうか。というのも、整理したものによって、大村しげの年代毎のいわば公式的、社会的な位

置づけをすることができるからである⁵⁾。

なお執筆関連のものについては、別稿「執筆に関連するもの」を参照されたい。箱の蓋2件は、民博への移送直前に撮られた写真によれば、整理中か、あるいは使用中の状態をそのまま留めたものようである。

以上のような検討によって、書斎兼接客の場であったオモテの間の収納用具とその中身から、次のような特徴が指摘できる。

- ① 帳筆筒という父親伝来の家具と新しいプラスチック製のレターケースが平行に使われている。
- ② 紙袋、紙箱、ダンボール箱といった紙製品が多く使われ、それらは殆どが転用されたものである。それらが利用される際、色和紙や千代紙、布を張って加工されたものがかなりある。
- ③ 籠や灰皿、革のトランクも本来の用途にかかわらず、収納用具として使われている。
- ④ 蓋のない籠には大きさや形の不揃いなものが入れられており、収納スタイルが定まりにくいもの、要するに落ち着きのわるいものが集められている。とくに高さが不揃いのものが籠に入れられている。
- ⑤ 小抽斗・レターケースには、執筆の際必要とするような細々した身の回り品が認められる。
- ⑥ 携帯することができる革のトランクには、大村しげの主要な著作や著述がまとめて入れられており、晩年にバリ島との間を行き来する生活に対応しようとしたものであろうか。いつも身近に置かれて、携帯することが出来る収納スタイルである。
- ⑦ 紙箱・ダンボール箱には、大村しげの幼児から前半生の40歳半ば頃までの遺品が年代毎に主題によって整然と仕分けてまとめられている。そのため著作とともに、こうした思い出のこもったものによって、大村しげの前半生のそれぞれの年代を辿ることができる。その内容の検討については改めて取りあげたい。

4.2 1階ナカノマ

ナカノマには、表2のとおり、合計17件の収納の用具や仕掛が確かめられる。家具としては、食器棚と長火鉢が上げられる。この部屋の押入は階段下に当たるが、ここには主として母親が管理していた衣類やハギレ類と布団類が入れられていた。衣類・ハギレ類の主な収納用具は、衣装箱8件、柳行李2件、木箱とダンボール箱、籠が各1件ずつであった。それに文箱1件とカバンが1件加わる。衣類やハギレ類は、押入に入れるときにも、多くは専用の衣装箱に入れられている。さらに木箱、ダンボール箱、カバン、柳行李が、衣類の収納用に転用されている。籠もハギレ用として使われ

ている。衣類が専用の衣装箱に入れられるのは、柔らかくて、それ自身では形を保てないことや、防虫剤の効果を保つために密閉性の高いことが要求されるという理由もあろう。しかしこの場合にも、元々輸送用であったと思われるダンボール箱が、1件ではあるが転用されている。またハギレは、新しい布地や着物を購入した時の松屋とか高島屋、大丸などの呉服店や百貨店の包装紙に包まれたり、洗い張り屋の包装紙に包まれたりしたものも少なくない。これらのことから、衣類の購入や手入れの仕方が追跡できるが、その詳細な検討については、別の機会に譲りたい。

なお収納された衣類の具体的な情報については、別に衣類の項で記載されているので参照されたい。

食器棚には主にフォーク、ナイフ、箸など付属的な食器類がはいり、長火鉢にはとりあえず入れて置くような雑多な小物（耳かきやしゅろぼうきや布巾など）が入っている（大村 1993: 44）。長火鉢のあったナカノマについて、大村しげは次のような文章を遺して、この部屋の意味を理解する上で参考になる。

台所にてんとすえたある長火鉢は、もう使うこともうなったのに、これがないと部屋の格好が付かないのである。わたしの心のよりどころやろうか。（中略）昔、母がすわっていた場に、いまわたしがすわってみると、これが主婦の座かと思うほど、どっしりしている。母はここで、家のさいはいをふり、父の帰りを待っていた。（大村 1987: 189）

とあり、主婦の座を象徴する長火鉢のあるナカノマは、衣類と食事道具を保持・管理する場であった。このナカノマには、民博へのものの移動の直前まで、冷蔵庫とFAXつき電話機もあった。こうしてみるとナカノマは、主婦が担当する衣・食及び家庭生活の管理をするための核となる場である。ナカノマのものは、そういった行為がスムーズに運ぶように、この場に置かれていたといえよう。

4.3 1階オクノマ

オクノマには、表3のとおり、合計21件の収納用具や仕掛が数えられる。箆筒類6件、抽斗2件、仏壇と仏壇の台など3件、金庫と鏡台・下駄箱は各1件で合計14件、さらに表とは別に書棚が1件あり、ここには家具らしい家具が集められている。但しオクノマには押入がない。そのため、これらの家具はもちろんのこと、ダンボール箱や紙袋も、むき出しに置かれている。内容は、表によって参照できるが、衣類と服飾小物、仏事に関するもの、長唄教本と三味線用具など、それらが用途や性別、古いものと新しいもの、和洋などに仕分けられて収納されている。

各箆筒には、和装衣類、和装小物、洋装類、洋装下着類、使用していない着物地の反物やインドネシアの生地類などが区別されて収納されている。羽織や作務衣、羽織

の紐や帯締めなどの和装付属品や小物類とカーディガン、マフラーなどの洋装類と一緒に収納されている箆笥が1棹あるが、洋物と和物は引出しを別にしてあった。

仏壇とその台には、数珠や仏壇の飾り具、仏典、経本などの仏具の他に、戸籍抄本や領収書、寄進の寺納書など菩提寺に関連したものなどが収納されている。仏壇下の台の替わりの箆笥には、上の段から順番に花瓶や灰皿、次に文鎮、置物、墨など、さらにメダル、バッジ、玉飾り、キーホルダーや鍵、体温計など。最下段の引出しにはメガネや扇子、化粧用具、掛け物掛などが入る。ここでは、他の箆笥に収納されているような衣類や繊維製品は見当たらず、置物類や飾り物、和風の文房具が見受けられ、仏壇と重なる伝統的な習慣や気分ということがこれらのものに重なってみとめられる。キーホルダーや鍵は、大事なものを仏壇下に置くということ、体温計は寝室にあるということと結びついているのではないだろうか。

茶箆笥がこのオクノマに置かれており、茶器のような接客用品や一部の身の回り品が入れられていたが、むしろ量的には、菓子の栞や箸袋、チラシやリーフレットなど、大村しげが執筆のために取材したものが多く収納されている。茶箆笥は、元はナカノマに置かれたものが、大村しげの脳梗塞後の療養生活がこのオクノマで行われたために移動されたものである⁶⁾。身の回りにこうした旅や食べ歩きの取材記録を置いたということは、大村しげのもの書きとしての気持ちの働き方があらわれているのだろう。茶箆笥にはさらに、茶道具、茶碗、種々の収集資料のほか、髪飾り、指輪などの装身具類、印鑑、裁縫道具、扇子や帯留めといった小型で紛失しやすいようなものや手近に置いて使われた身の回り品も収納されている。また指輪を外したり髪飾りを取って置いたりといった、ちょっとした身繕いをするとか、繕い物などの針仕事をするなど、元の置き場所であった茶の間での生活行為も、茶箆笥の中身から想像される。

オクノマにはさらに、引出し1件と小抽斗1件がある。引出しには時計、硬貨、眼鏡ケース、耳かき、巾着、バッジ、ブローチなどが入り、こうした身の回り品をまとめて置いたことが分かる。小抽斗には、衿芯、帯板、帯締め、帯枕など着物の着付けに必要な小道具と、前掛け13枚、手袋と足袋37足などの和装用小物がまとめられている。オクノマは大村しげの着替え、特に和服の脱ぎ着の場所であったことが、これらが和箆笥などとともになら置かれていることから分かる。和服の着付けに必要な小道具や小物が本来の箆笥とは別に、小抽斗にひとまとめにされているのは、所有者による和装の管理上の工夫と思われる。またオクノマには本棚があり、著作物が置かれていた。オクノマに続く縁側には、和装用の下駄箱がある。

オクノマの収納は、以下のようにまとめられる。

- ① 収納のための装置、主に家具が多く並んでおり、同時に寝室でもあった。箆笥類には、衣類が普段着と余所行きのような用途や性別、新旧、和洋などに仕分けら

れて収納されている。

- ② 紙箱・ダンボール箱も収納用具として使われている。
- ③ 使用していない着物地の反物やインドネシアの生地類などが区別されて収納されている。和装付属品や小物類とカーディガン、マフラーなどの洋装類が一緒に収納されている筆筒が1棹あるが、洋物と和物は引出しを別にしてある。
- ④ 和装小物や付属品が、別に小抽斗にまとめて収納されている。
- ⑤ 身の回り品が引き出しにまとめられている。
- ⑥ 下駄箱には所有者の外出用の和装用履物や和傘がまとめられており、別の普段用和装履物、洋装用の履物、男物の履物を収納した下駄箱（地下室入り口に置かれた）とは明瞭に区別されている。
- ⑦ 仏壇は位牌の居場所であるが、登記書類のような不動産の証明書や出生やライフコースを証明する書類、祖先の祭祀に関連するものが保存されており、そういった公式的で儀礼的なものに加えて、文箱が収納されている。
- ⑧ 鏡台には、主に整髪用の道具や化粧品が入れている。他に身の回り品を入れた茶筆筒がある。
- ⑨ 茶筆筒と本棚があり、それぞれ大村しげの取材したものと書いたものがまとめられている。しかし療養生活の中で、これらはほとんど利用されず、もの書きとしての気持の拠所として置かれていたものと思われる。

4.4 1階ハシリモト及び地下室

ハシリモトの収納用具や仕掛けは、表4の通りである。ハシリモトには、作りつけの大きな水屋があり、ここには料理研究家としての大村しげが使う食器や台所用具が収納された。他に、小型のケースや食器入れなどがある。しかし写真によれば、流しやおくどさんの上の壁や背後の壁面に、かなり多くの台所用具や調理器具が、むき出しで壁に吊されたり、置かれたりしている。作りつけの水屋には、紅鉢や片口、竹ざるなどの調理用具・器具や盛りつけのための食器類が、包まれたり箱に入れられたりすることなく、個々に収納されている。そのまま使用できるスタイルになっている。

地下室には、表5のとおり、19件の収納の装置が確認された。ダンボール箱と紙箱が計7件、缶が4件、籠が2件。他にトランク、紙袋、プラスチック衣装箱、壺、下駄箱、道具入れが各1件ずつ。ここでは転用された箱類と缶が目につく。下駄箱や道具箱には、その機能に応じた履物や大工道具などが主に入っている。

5 2階の収納用具とその中身の概容

2階の収納用具と収納の仕掛けは、表6のとおり、合計42件、確かめられた。多

い用具は、ダンボール箱9件、紙箱8件の箱類で、計17件を占める。次に大村しげの父親が仕出し屋だったことから、仕出し用の食器類を取めた専用の桐の箱が6件ある。家具らしいものに、筆筒1件・小抽斗3件・長持1件があり、父親の生前の衣服や信仰に関わるものが入られていた。衣装箱も2件ある。大村しげが療養生活に入ってから、不要になったものは、2階に上げられたというから、ここには父親のものや不要のものが収納されていた。そういったものが多くのダンボール箱や紙箱に収納されていた。

6 収納用具の中身の分類

ものを分けて収納する仕方については、関係者へのインタビューによっても、確かめられた。この点については既に報告しているため（横川 2005）、コレクション調査と合わせて、収納の仕方に見られる規則を再確認しておきたい。

- ① 使用頻度によって収納場所・収納用具が区別される。よく使われるものは、所有者の身近に置かれる。またオモテやオクノマにおける収納の仕方でもわかるように、所有者の居場所に集中する傾向がある。
- ② 使われないものは、納戸として使われた2階に上げられている。つまりよく使うものと使われないものは別々に置かれている。
- ③ 衣類や履物は、和風のものや洋風のものに分けて収納される。
- ④ 衣類や履物は、使用者や男女で分けて収納される。
- ⑤ 新しいものと古いものは分けて収納される。
- ⑥ 衣服とは別に、服飾小物を和洋別々にまとめて収納する。
- ⑦ 日常と非日常のものは仕分けられる。
- ⑧ 公私により、ものの仕分けがなされ、それぞれ別々に収納される。
- ⑨ 同一場面で使うもの、たとえば玄関周りで使うものは、機能にかかわらず同一場所や同一収納用具に仕分けられる場合がある。
- ⑩ ものの置き場には、時間的推移がある。

以上、ものの在り場所がどのように分別されるかについてのインタビューを参照した結果、当然のことながら、実際にももの収納の仕方と符合している。ここには、個々のものが収納される際に、どのように仕分けられるかに関する規則のようなものが指摘された。服飾小物や身の回り品を区別して収納するというような、もの実際の使い勝手や大きさによるのみならず、和洋やジェンダー、公私、日常と非日常、新しいものと古いものなどの文化要素と密接に関わって、ものの収納場所が区別されている。

7 大村しげのこだわり

1階の収納家具の在り場所は、オクノマに集中している。その中身は、主として大村しげの衣類や服飾小物である。鏡台や、余所行き用の履物や和傘を詰め込んだ下駄箱もそばにある。ここが身支度場で、そのための道具がまとめられているといえる。またオクノマは寝室でもあった。この2つの機能は、どちらも私的な営みである。

さらにここには、執筆のために取材した細々したものの一部を入れた茶箆筒があり、本棚には執筆した著作が並べられている。大村しげの、いわば分身ともいえるものたちが、最も身近な私的空間に置かれていることになる。父母や弟妹の位牌を祀った仏壇と戸籍抄本や寺納書のような個人情報にかかわるものを入れた金庫も、この奥まった部屋に置かれた。

こうして見てくると、私的な精神的拠り所となるものに取り巻かれるように、それらが身近に置かれたように見える。もの書きの大村しげではなく、1人の人間としての気持ちの落ち着きどころが、これらのものによって確保されているのではなかろうか。

オモテは、家具らしいものは帳箆筒のみである。帳箆筒には、「手作りの店 峯」の営みに関連したものが収められており、この部屋の機能のひとつが象徴されている。またオモテは大村しげのもの書きとしての仕事場であったから、押入には紙を使ったものが多く収納されていた。さらに小学校時代からの履歴を明証するものが、年代とテーマ毎に箱に整理されていた。教科書類や試験用紙、ノート類、著作、多くの寄稿文、愛読者カードや校正原稿、家族を中心とした写真とアルバム、ハガキや手紙など、ライフステージ毎の思い出が染みついたようなものが整然と集まっている。ダンボール箱3つに収納された郷土人形や郷土玩具、細々した観光土産品などは、少し趣が異なるが、やはり思い出にまつわるものだろう。「親衛隊」⁷⁾の人たちが同行した旅行では、大村しげはこれらを買求めた形跡がないというから、より若い日々を集めた思い出の品々なのだろう。親衛隊が形成されるきっかけになった、西陣青年の家の読書サークルの文集や同所への囑託勤務に関わる書類もまた、ここに置かれた。

オモテの間に置かれたものからは、もの書きとしての大村しげが、書く対象として取り上げた自らの人生の縮図が彷彿としてくる。それはオクノマの私的な拠り所とは性格が異なり、公式的・社会的な大村しげの位置づけを示唆するものたちでもある。

ナカノマ押入の衣料は、殆どが母親の管理したものと思われる。著作によれば(大村 1993: 30-39)大村しげは、その一部をときには利用した。しかし、父親のものが2階に置かれたにもかかわらず、ここのものは、そうはされなかった。衣類と、きちんと整理されて母親の手の跡を留めているようなハギレには、大村しげにとって動かしたい何かがあったのである。そのためか、大村しげにとってナカノマは、そこに

座っていた母親を思い出す場であり、主婦の座を思い浮かべる場であった。そして著述にも描かれるように、そうした思い出を心の拠り所として保持することが、内側からの視点を基本にすえたもの書きとしてのこだわりであると同時に、心の平安を得ることもあった。但し現実行動としては、ナカノマは、長火鉢と食器戸棚に象徴される大村しげの食事の空間である。長火鉢は、関係者の証言によれば、遅い朝食のための食卓替わりに使われた。

多くのものは、一見、雑然と置かれているようである。しかし1階の各部屋の収納品は、大村しげの人生のいろいろな側面と密着したもので満たされている。逆にいえば、それ以外のつながりはほとんど見当たらない。大村しげの心情が、上述のように、そうしたものの詰まった場面によって切り替えられつつ、日常生活ともの書き生活のドラマが紡ぎ出されていたのだ。オモテでは手作りの祝儀袋を畳んだり（大村 1988: 183-184）、空き箱に千代紙を貼って「しまつとぜいたく」のからまり（大村 1993）を思い、自らのライフコースの拠りどころとなるものたちに支えられて、執筆した。ナカノマでは、主婦として采配を振るった母親を偲びながら、衣に関わる細やかな営みを追想したのである。そして、そのこともまた著作に反映した。

また大村しげの家族生活は、父母の相次ぐ死によって、現実には40歳頃に崩壊した。しかし、父母との家族生活は、ものを媒介として彼女の心情の中に深く沈んで保持され続けたのではなかったろうか。やや古風な勝手元を拠りどころにした彼女の視座—こだわりは、こうしたものの現実によって支えられていたのではなかろうか。収納用具とその収納品の範囲では取り上げられなかったもの、たとえばナカノマに積み重ねられていた新聞などに注目すれば、暮らしの刻印としてもものを残し続けた大村しげのこだわりについて、さらに理解が拡大するにちがいない。

以上のような大村しげの収納と収納されたものに関するこだわりは、ひとつの事例であり、格別に暮らしのスタイルといえるほどのことではないかもしれない。しかし彼女がそれらを取りあげて書いた文章は、多くの人々に共感を持って受容された。大村しげのこだわりが、20世紀の日本人に共通するスタイルや価値意識とどう関わり、どう位置づけられるのか、さらに検討を要する課題である。その点については今後の課題としたい。

注

- 1) 大村しげは、もの書きになったいきさつを「京のうなぎの寝どころ」（大村 1974a: 209）の中で、「あるときふっと作文を書き始めて、家でお釜さんの底をこすっているのがあほらしかったのが、そんならこのおさんどんをいかそうやないかという気になった」という、それからは「お茶碗洗いにも身が入って、走り元での生きがいを見つけた」といい、暮らしの場

- からの発信という明快な視座をもっている。
- 2) 自画自賛の視座については、生活現場からの発信ということから考えると、自分自身をも対象にする生活学に共通するところがある。生活学では、自虐的な破滅型生活学と自賛型生活学があり得るという指摘が既にあり、生活学が学問としての均衡を得るためには、複数の視点が要請されるとされている（川添・高取・米山 1976: 231）。
 - 3) 収納には明らかに用具といえるものばかりではなく、いろいろな様態のものが、収納用に転用される。紙類やカバン類、器ものなどがあり、これらを総称して装置や仕掛としている。
 - 4) ここで取りあげた収納用具は、原則的に収集番号が付けられたものに限定されている。というのも個々のものは、それぞれ専用の箱や包み紙、ポリ袋や新聞紙などに包まれたうえで、さらに、これらの収納用具に収納されていたものも少なくない。が、第一段階の包みには収集番号は付けられず、備考欄のメモとして記述されただけのものも多いからである。
 - 5) 但し女子専門学校への進学・中退後から太平洋戦争終結後に至る時代は、まとまったものが発見されておらず、わずかに1938～39（昭和13～14）年の新聞紙に包まれた髷（かまじ）や、それを使って日本髪を結った大村しげの写真、戦時下の㊦印の付いた統制品が確められるぐらいである。このことは、個人的な事情によるものなのか、戦中という時代を反映するものなのか、検討の余地があるだろう。
 - 6) 大村しげの脑梗塞後の部屋の使い方については、鈴木靖峯氏談による。
 - 7) 「親衛隊」については、大村しげの文章で次のように説明されている。「親衛隊というのは、わたしが両親を見送って一人になったとき、朝日新聞の記者の紹介で、西陣の船岡山公園内にある市の“西陣青年の家”に非常勤嘱託として勤めることになった。そこは働く青少年の憩いの場で、場所柄、西陣の織屋さんで働く利用者がいちばん多い。わたしはみんなのおかあさん役やった。（中略）利用者の年齢は三十歳までやったから、そのころ二十歳そこそこの青年やら少女たちが、今では企業のオーナーやったり、染織やら漆芸の作家さんになっていて、その道で活躍していたりで、三十年來のお付き合いは、今もお続けている。わたしと親衛隊との間柄である」（大村 1999: 207-208）。大村しげは、あらかじめ、この親衛隊とお葬式の相談を進めているような間柄だった。

文 献

大村しげ

1974a 『暮らしの設計』209、東京：家庭画報社。

1974b 『京の手づくり』東京：講談社。

1987 『京暮し』東京：暮しの手帖社。

1988 『京暮らしの彩り』東京：佼成出版社。

1993 『しまつとぜいたくの間 ゆたかな暮らしのエコロジー』東京：佼成出版社。

1997 『ほっこり京暮らし』京都：淡交社。

1999 『京都・バリ島車椅子往来』東京：中央公論社。

川添 登・高取正男・米山俊直

1976 『生活学ことはじめ—日本文化の原像』東京：講談社。

横川公子

2005 「収納場所と収集用具—事例「大村コレクション」から—」『生活デザイン』3: 60-70。

表 1 各部屋の収納用具とその中身 1 階オモ子の収納

| 収集番号 | 資料名 | 法量 (mm) | 収納場所 | 収集番号 | 収納品 |
|------|------|--|-----------|-----------|---|
| 1197 | 帳筆筒 | 485・844・705 | 右1引出し | 1198～1205 | ボスターカラー1 コイン5 ピン8 名刺5 ペンダントトップ5 値札3 耳栓3 ラベル1 |
| | | | 右1段目 | 1260～1261 | 矢立1 ちらし1 |
| | | | 右2段目 | 1206～1217 | 二段ソケット1 ポールペン1 両面テープ1 竹串6 朱肉2 収入印紙5 イヤリング1 印鑑2 そば茶のラベル60 写真7 十門玉1 スタンプ8 |
| | | | 右3段目 | 1218～1232 | 安全ピンなど55 接着剤1 画鋏2 箱1 封筒止め3 カーターン金具15 千枚通し1 ナイフ1 |
| | | | 右4段目 | 1233～1254 | ラベル411 しおり511 シール3 扇2 紙番1 名刺92 名刺用紙46 用紙112 竹製品5 紙箱2 スタンプ1 印鑑9 革製品30 |
| 1519 | 書類入れ | 210・290・150 | 右5段目 | 1255～1259 | ねじ2 ビニールテープ3 コンセント1 電球1 クリップ1 差し棒1 部品54 カーターン金具6 ピン12 星座色紙2 |
| | | | 左下 | 1272～1283 | 半紙1 熨斗紙6 祝儀用紙45 油紙34 紙109 |
| 1534 | 手提げ箱 | 170・270・190 算盤 90・255・30 引き出し50・255・45 他 | 上蓋 | 1520～1528 | メモ1 小袋13 栗22 テープ11 おはじきとクリップ3 紙皿4 紙立て1 |
| | | | 中引出し | 1537～1550 | 水滴1 硯1 矢立1 取っ手他2 鐘1 ピンセット1 文鎮1 カーターン金具7 クリップ25 し字金具2 ピーズ他4 ソケット1 ねじ52 |
| 2154 | たばこ盆 | 223・342・264 | 1段目右隠し引出し | 2155～2163 | 救急絆創膏5 耳かき2 オブラート1 龍角散1 塗り薬3 クリーム1 |
| | | | 1段目右引出し | 8414～8415 | 金粉1 メタル1 |
| | | | 1段目左引出し | 8416～8422 | 朱肉1 5円玉3 かるた1 ゴム印1 匂い袋1 消しゴム1 クリップ4 |
| | | | 2段目引出し | 8423～8433 | カード33 目録12 はがき7 印1 ポチ袋3 楊枝人形3 しおり2 拝観券2 金粉1 糸巻き3 菓子の付録1 |
| | | | 3段目引出し | 8434～8444 | 筆記用具8 手鏡1 文具2 紐1 指抜き1 トレー1 玩具1 小物入れ1 鉛筆30 万年筆3 手帯3 文房具34 |
| 8474 | 紙袋 | 327・315 | 4段目引出し | 8450～8454 | ひとがた110 栗1 執筆記録3 メモ帳3 手帳2 |
| | | | 5段目引出し | 8455～8465 | 切手シート120 切手107 発行予定表1 メモ1 紙幣3 挨拶状他7 |
| 8493 | かご | Ø250・310 | | 8475～8492 | 帯締め14 帯絞めの空箱3 電気器具コード1 紐1 |
| | | | | 8494～8503 | 花瓶1 鉢1 皿1 蠟燭立て2 小物入れ2 ツボ2 竹とんぼ1 ぬいぐるみ1 |

| | | | | | |
|------|--------|-------------|-----------|---|--|
| 8511 | 紙袋 | 310・300・160 | 8512～8525 | 紙製空き箱14 | |
| 8526 | 紙袋 | 330・300・140 | 8527～8538 | 紙製空き箱12 | |
| 8539 | 紙袋 | 340・250・105 | 8540～8542 | 木製空き箱1 紙製空き箱2 | |
| 8633 | 紙袋 | 230・318・112 | 8630～8642 | 原稿7 コピー2 切り抜き1 メモ4 ハガキ1 校正刷り1 | |
| 8643 | 紙袋 | 360・268・163 | 8644～8657 | 手紙57 名刺33 原稿2 切り抜き1 電報18 色紙2 レタックス1 | |
| 8725 | レターケース | 255・332・253 | 8726～8733 | プラスチックリング22 ビニールタイ8 ライター1 ペンライト1 鍵1 キーホルダー1 木片1 把手1 | |
| | | | 8734～8747 | 野菜のミニチュア14 押し花9 写真6 消しゴム4 クリップ4 企画書コピー1 著置き1 ハガキ2 雑誌コピー1 新聞切り抜き1 チケット1 プラスチックケース1 メモ1 木箱1 | |
| | | | 8748～8775 | 絵はがき2 官製ハガキ8 切手1 クリップ6 健康検査報告1 再利用小袋11 再利用のし袋13 私製ハガキ9 祝儀袋4 筆記具5 ポチ袋4 ミニたとう紙3 輪ゴム14 和製カード10 和紙ハガキ2 その他9 | |
| | | | 8766～8847 | 絵はがき4 再利用小袋11 再利用のし袋13 私製ハガキ3 住所メモ2 手紙33 ハガキ28 メモ5 ポールチェウン2 メッセージカード2 招待券2 その他6 | |
| | | | 8848～9125 | 名刺714 住所メモ4 | |
| 9148 | 壁掛け | 255・300・100 | 9149～9154 | 方眼紙1 地図1 案内状1 葉1 出版案内1 鈴木氏紙関係資料一式 | |
| 9329 | ファイル | 298・225・7 | 9318～9330 | コピー8 教材6 名刺2 ハガキ1 小冊子2 写真1 メモ1 | |
| 9332 | ファイル | 276・203・2 | 9333～9354 | メモ18 見学記録11 名刺11 リーフレット9 写真5 コピー3 ハガキ3 案内3 切り抜き5 その他8 | |
| 9412 | 箱のふた | 275・395・63 | 9392～9411 | ハガキ47 たとう7 包装紙5 和紙4 風呂敷2 領収書2 当座帳3 名簿1 アルバムコーナー2 その他8 | |
| 9413 | 箱のふた | 270・383・87 | 9414～9503 | 領収、納品書類など80 献立表39 切り抜き33 メモ27 ちらし20 写真24 封書10 コピー15 本類12 パンフ10 ハガキ4 カード3 台本9 クラブリ11 企画書3 その他37 | |
| 9505 | かご | 142・277・80 | 9506～9513 | 和傘2 独楽2 造花3 根付け1 メモ1 接着テープ1 色紙1 靴磨き1 | |
| 9693 | 紙箱 | 234・212・95 | 9661～9692 | 置物11 玩具6 むいぐるみ3 袋3 ペンダントトップ3 ミニチュア2 人形2 写真2 お守り2 マスコット1 サイコロ1 その他4 | |
| 9789 | 紙箱 | 240・405・155 | 9790～9805 | テスト用紙56 連絡文書10 試験用紙5 授業の記録13 新聞切り抜き11 手紙7 写真印刷3 その他2 | |

| | | | | | |
|-------|--------|-------------|--|-------------|---|
| 9709 | ビニール袋 | 470・320 | | 9710～9756 | 愛読者カード200 校正原稿6 原稿11 雑誌記事7 切り抜き17 雑誌14 コピー6 出版契約書4 原稿依頼書1 カード3 ハガキ3 送り状1 献立1 表紙1 |
| 9923 | 紙箱 | 314・314・130 | | 9924～9936 | 置物9 簪2 玩具3 煙管4 人形7 硯屏1 |
| 9937 | ダンボール箱 | 280・390・167 | | 9938～9943 | 簪7 置物5 面3 カレンダー1 短冊1 |
| 9944 | ダンボール箱 | 237・325・200 | | 9945～9953 | 封書ハガキ213 木版画24 ノート10 作文集9 楽譜1 |
| 9954 | ダンボール箱 | 235・285・95 | | 9955～9961 | 小冊子57 版下3 ノート2 バンドブック2 |
| 9962 | ダンボール箱 | 252・370・155 | | 9963～9995 | 教科書55 礼状1 |
| 9997 | ダンボール箱 | 270・428・185 | | 9998～10011 | アルバム9 写真69 文箱1 |
| 10012 | ダンボール箱 | 230・345・280 | | 10013～10054 | 置物10 人形13 こけし5 指輪12 紙箱4 ミニチュア3 玩具2 花瓶置き1 その他9 |
| 10055 | ダンボール箱 | 310・370・265 | | 10056～10068 | 絵馬6 姉妹人形5 置物4 面3 こけし2 土鈴1 手鞠1 風鈴1 |
| 10069 | ダンボール箱 | 330・467・282 | | 10070～10122 | 貝殻40 人形30 置物15 絵馬12 ミニチュア10 こけし4 鈴2 缶2 その他11 |
| 10364 | 紙箱 | 385・260・105 | | 10365～10405 | 色紙40 祈祷文1 |
| 10410 | 紙箱 | 285・253・60 | | 10411～10470 | 色紙60 |
| 10471 | 紙箱 | 340・315・95 | | 10472～10544 | 色紙72 包装紙1 |
| 10545 | 革トラंक | 110・350・260 | | 10546～10576 | 本34 新聞4 |
| 10577 | 紙箱 | 360・280・175 | | 10578～10636 | 書画集48 扇子40 包み紙7 箱4 写真5 小風呂敷1 新聞1 根付け1 煙草入れ1 団扇立て1 |

表2 各部屋の収納用具とその中身 1階ナカノマの収納

| 収集番号 | 資料名 | 法量 (mm) | 収納場所 | 収集番号 | 収納品 |
|-------|--------|-------------|---------------|--|--|
| 2071 | 長火鉢 | 485・725・325 | 右引出し 中央引出し | 2076～2090 2093～2095 2091～2092 2096～2111 | 手拭い1 布巾2 小鏡入れ1 栓抜き2 マッチ4 指圧器1 楊枝入れ1 コーンスター6 テーブルセクター1 角皿1 紙9 取っ手8 包帯3 ハンカチ5 懐炉1 輪ゴム7 指サック5 体温計1 剃刀の替え刃1 木製部品2 鋏14 袋開け1 安全ピン2 金具16 カーターテンフック9 ソケット1 |
| 3753 | 柳行李 | 370・210・160 | | B1561～1632 | もんべ5 帯4 ひつぱり3 女物襦袢3 枕カバー4 半纏2 前掛け2 男物コート 袖無し羽織 二部式着物下衣 帯地各1 子供用和服布3 大人用和服布20 布団布3 染め見本3 はぎれ19 |
| 10924 | 籠 | 160・380・325 | | 10925～10967 | 金具19 ねじ10 マッチ14 角棒3 針金3 テープ3 ドライバー2 鋏2 鋸1 切手2 ビニール袋2 印章1 その他12 |
| 10983 | ダンボール箱 | 340・367・520 | | 10984～10990 | かご4 座布団2 一輪挿し1 |
| 12133 | 衣装箱 | 400・395・795 | | B415～458 | 男性用肌着上衣5 女性用肌着上衣3 女性用下着下衣4 男性用肌着下衣1 裾よけ6 裾よけの布4 参詣 儀礼 祭り用装束11 風呂敷2 男物単長着1 中裁女児単長着1 仕事着1 帯 紐4 手拭い1 |
| 12135 | 衣装箱 | 367・725・407 | | B574～641 | 掛布団用鏡地16 (一部欠が3) 掛布団用側地8 (一部欠が2) 敷布団用生地7 (一 部欠が1) 座布団用3 中裁着物1 男女着物表地各1 女物羽織表地7 (一部欠が 3) 中裁女児用表地一部欠1 一つ身用一部欠1 襦袢袖4 胴裏1 生地1 カバー1 はぎれ13 |
| 12136 | 衣装箱 | 255・405・275 | | B2201～2231 | 風呂敷12 大風呂敷6 のれん4 布巾8 袋兼用三角巾1 |
| 12137 | 柳行李 | 365・540・170 | | B642～652 | 生地7 裾よけ地1 胴裏1 晒し一疋 はぎれ1 |
| 12138 | 衣装箱 | 333・625・268 | | B679～742 | 真綿51 和服地5 半襟10 はぎれ70 和服地部分14 帯地2 風呂敷1 襦紗1 |
| 12139 | 木箱 | 295・389・130 | | B1106～1194 | 襦袢の袖2 裾テープ12 はぎれ81 半襟1 紐5 |
| 12140 | 衣装箱 | 390・740・350 | | B1195～1288 | 長襦袢地1 男物長着表地5 裏地3 女物長着表地8 (一部欠1) 裏地3 男物羽織表地1 裏地1 女物羽織裏地2 八掛4 (一部欠2) 胴裏7 居敷当て5 肩当て7 座布団側1 兵児帯1 子供用着物表地3 裏地9 裾よけ1 修験服裏地1 はぎれ33 |

| | | | | | |
|-------|------|-------------|--|------------|--|
| 12141 | 衣装箱 | 313・482・208 | | B1289～1415 | 男物長着表地一部欠各1 男物羽織裏1 中裁女児長着表裏地各1 袴地5 半袴19 帯1 帯芯1 袖紐115 (片方のみ2) 居敷当て1 肩当て一部1 袋1 胸裏部分1 八掛1 紐5 手絡1 織り出し15 はぎれ56 |
| 12142 | 衣装箱 | 330・490・150 | | B1739～1957 | 女物長着表地部分4 長襦袢地部分3 八掛3 (一部欠1) 胸裏6 (一部欠4) 女物羽織裏地1 半袴1 掛け袴3 袴布6 袖口布15 (片方のみ1) 肩当て1 一つ身胸裏1 ネットタイ1 レース地1 洋傘の留め紐3 はぎれ171 |
| 12145 | 文箱 | 350・265・110 | | B1739～1791 | はぎれ48 傘の留め紐3 ネットタイ1 レース1 |
| | 押し入れ | | | B1998～2013 | シーツ2 タオルケット1 掛け蒲団5 座蒲団1 敷き蒲団2 汚れよけカバー4 |
| | 籠 | | | B459～465 | 足袋7 暖簾3 |

表3 各部屋の収納用具とその中身 1階オクノママの収納

| 収集番号 | 資料名 | 法量 (mm) | 収納場所 | 収集番号 | 収納品 |
|------|---|------------------------|--------------|--|---|
| 1115 | はぎれ筆筒 | 420・92・112 | 中段の1段目 | B140～157 B160～180 | インドネシア布8 はぎれ8 浴衣地4 八掛4 反物4 羽織裏地2 生地3 胸裏1 さらし1 帯地1 コート地1 |
| | | | 中段の2段目 | B57～139 B158 | はぎれ29 女物着物地5 男物着物地1 八掛8 女物羽裏5 反物4 女物羽織地3 女物着尺地部分5 胸裏4 女物裾地2 帯地2 裏服長裾袴1 のれん2 子供用和服布4 その他10 |
| | | | 中段の3段目 | B159 B268 ～414 | はぎれ94 生地11 テーブルセンター9 布7 インドネシア布4 ろうけつ作品3 和服裏地4 肌褌袴の袖2 風呂敷2 反物1 和服用布2 その他7 |
| | | | 中段の4段目 | B15～33 B256～267 | 帯15 はぎれ9 コート6 羽織1 洋服地1 |
| | | | 中段の5段目 | B1～12 | 長着8 長裾袴3 羽織1 |
| | | | 中段の6段目 | B13～14 B34～56 | はぎれ7 羽織2 半襟8 ジャケット2 紙箱2 婦人活動着, もんぺ, コート, ショール, 服地, 座布団御, 女物長着生地各1 |
| | | | 中段の5段目または6段目 | B181～255 | 半襟50 はぎれ12 生地4 肌褌袴3 テープ4 インドネシア布3 女物上衣3 兵児帯, コート, クッションカバー, 布, ハンカチ, 掛け袴各1 |
| | | | 下段の引出し1 | B466～526 | 衿心1 帯揚げ止め1 帯板2 帯締め4 帯枕2 金具と糸1 腰紐9 子ども用着物紐1 子ども用羽織紐1 水筒の紐1 足袋14 布1 羽織紐2 紐7 前掛け13 |
| | | | 下段の引出し2 | B527～561 | 衿心1 帯締め3 帯枕2 腰紐5 室内履き3 ソックス1 ソックス足袋4 足半足袋15 |
| | | | 上 | 菓子袋75, ラベル27, 箸袋6, キーホルダー, ミニチュア, 絵馬, 裁縫道具など合計426点 | 3250～3379 3551～3717 |
| 下? | 茶道具 茶碗 裁縫道具 竹筒など194点 | 3177～3249 | | | |
| 引出し | 絵はがき125 リーフレット54 メニュー1 パンフレット4 しおり8 ちらし2 その他 櫛15, 簪29, 帯留め14, 扇子16, 指輪, カウス, 印章など合計269点 | 3380～3553 4371～4398 | | | |
| 上左 | パンツ20 | 1296～1315 | | | |
| 上中央 | パンツ10 | 1316～1325 | | | |
| 上右 | 靴下7 軍足4 ストッキング1 タオル2 | 1326～1339 | | | |
| 下左 | バスタオル2 ハンカチ1 使い捨てカイロ7 | 1340～1342 1367 | | | |
| 下右 | 帽子1 マフラー1 スカーフ5 紐1 手拭い2 帯1 ショール1 手袋10 防虫剤1 洗顔石鹸1 | 1343～1366 1368 | | | |
| 1294 | 茶筆筒 | 617・295・910 | | | |
| 1295 | 筆筒 | 330・908・450 | | | |

| | | | | | |
|------|--------|---------------|-------------|-------------------------|---|
| 2276 | 和筆筒 | 400・890・1010 | 1 段目 (大1段目) | B861～891 | Tシャツ7 シャツ8 トレーナー2 シャツブラウス2 ブラウス4 ポロシャツ1 カーディガン2 作務衣2 チョッキ1 洗濯ネット2 匂い袋1 |
| | | | 2 段目 (大2段目) | B892～920 | ジャージ下5 スポーツ7 ひっぱり4 ブラウス3 チョッキ1 ポロシャツ1 サマードレス1 部屋着上下各1 男女浴衣各1 裾あげテープ1 予備ボタン2 予備用布1 |
| | | | 3 段目 (大3段目) | B921～952 | ワンピース8 ひっぱり3 袖無し1 ネグリジェ1 パジャマ1 パジャマ下1 靴よけ1 袋2 襦袢3 紐3 ネットカーチーフ1 帯2 はぎれ5 お手玉3 匂い袋2 |
| | | | 4 段目 (中1段目) | B953～980 | ワンピース1 パジャマ3 スポーツ1 スモック1 下着上衣3 下着下衣3 靴下1 ハンカチ2 タオル類5 はぎれ5 予備ボタン9 予備用布4 |
| | | | 5 段目 (中2段目) | B981～1012 | 帯枕1 お守り1 シュミーズ3 ショーツ2 ストッキング10 スモック1 肌着3 手拭い29 パジャマ上.2 パジャマ下1 根付け1 パンティ6 股引1 和装下穿き8 |
| | | | 6 段目 (小1段目) | B1013～1028 | 半衿19 腰紐4 伊達締め1 |
| | | | 7 段目 (小2段目) | B1029～1087 | 袋3 ハンカチ47 コースター5 小風呂敷1 頭巾1 ネットカーチーフ2 手拭い1 はぎれ1 |
| | | | 8 段目 (小3段目) | B1088～1105 | コルセット1 サポーター14 腹巻き1 足袋4 帯締め3 ベルト1 |
| 2277 | 和筆筒 | 1660・390・1190 | 上段 | 12045～12091 | アクセサリーケース106 空箱14 ピーズ34 フック6 ソケット31 プラグ4 コード8 コード調節器具4 豆電球5 はぎれ7 その他7 |
| | | | 中の上段 | B743～769 | ワンピース2 帯6 ショール5 敷物3 前掛け3 もんぺ、ひざかけ、女物長着、 作務衣、袖無し羽織、半襟、紐各1 |
| | | | 中の中段 | B770～791 | 帯13 女物羽織4 作務衣2 布1 |
| | | | 中の下段 | B792～818 | 羽織の紐15 帯締め5 帯の飾り7 帯板3 匂い袋2 ワンピース、サマードレス、 ひっぱり、帯、女物羽織、女物長着各1 |
| | | | 下の上段 | B840～860 | 帯6 すそよけ3 女物長着6 長襦袢1 ケープ1 匂い袋7 |
| | | | 下の下段 | B819～839 | カーディガン5 ショール3 マフラー2 ネットカーチーフ2 羽織2 炬燵カバー2 匂い袋3 袖無し羽織、セーター3、前掛け、バスローブ各1 |
| | | | 3063の中 | 3064～3091 | 花瓶、灰皿、文鎮、置物、墨、写真、ハガキ、収入印紙など48点 |
| | | | 上段左引出し | 3092～3099 | メダル4 バッジ2 置物1 蘭玉飾り61 |
| 3063 | 仏壇下の筆筒 | 570・240・605 | 上段右引出し | 3100～3109 | 機中時計1 キーホルダー1 袋1 指輪3 金歯11 体温計1 クリップ2 ピン1 |
| | | | 中段左引出し | 3110, 3111 3122～3121 | 眼鏡2 コンパクト3 匂い袋1 薬入れ1 化粧用具4 鉄球8 メモ帳1 |

| | | | | | |
|------|--------|--------------|--------------------------------|--|---|
| 3063 | 仏壇下の箆笥 | 570・240・605 | 中段右引出し 下段引出し | 3112～3121 3133～3149 | 扇子7 刷毛1 金歯1 扇子10 扇子立て1 半袴2 手緒4 リボン4 新聞紙1 掛物掛1 |
| | | | 5段目 | B1416～1440 | ワンピース7 袖無し羽織3 ひっぱり2 セーター2 匂い袋2 二部式着物、二部式着物下衣、ベスト、カーディガン、風呂敷、藤掛け、ショール、はぎれ各1 |
| | | | 4段目 | B1441～1451 | 女物単長着6 和服コート、長襦袢、ひっぱり、カーディガン、袖無し羽織各1 |
| 3751 | 箆笥 | 395・873・1030 | 3段目 2段目 1段目左 1段目右 | B1452～1468 B1469～1483 B1484～1519 B1520～1538 | 女物単長着14 二部式着物上衣2 パスタオル1 女物単長着9 浴衣3 長襦袢1 和服コート1 布 肌襦袢11 裾よけ11 着物パントリー6 肌着3 エプロン、足袋、ブリーフ、簡易衾、布各1 |
| 2916 | 仏壇 | 390・520・1195 | 引出し 上段 引き戸 | 2917～2946 2948～2967 2968～2984 | 帯締め5 帯枕3 帯揚げ3 手袋2 腰紐2 帯、衿、帯飾り、羽織紐各1 数珠8 錦2 お札4 手紙1 袈裟2 證1 空き箱1 花卉13 写真2 証明書2 法門の文1 戸籍抄本1 領収書類5 寺納証1 血脈1 戒脈1 仏具17 仏典2 経本1 達磨像1 箱1 蠟燭85 線香13 香のもの244 布3 金属磨き液1 燭台1 竹製容器1 陶製器具1 |
| 2985 | 仏壇の台 | 520・390・300 | | 2986～3046 | 仏具55 葬儀の記録など12 神像7 奉納物2 護符3 掛け軸1 腹帯1 朱肉入れ1 |
| 3047 | 仏壇 | 240・170・430 | | 3048～3062 | 達磨像3 仏像5 盃4 皿3 香炉1 置物1 木製品1 |
| 3954 | 木箱 | 36・315・55 | | 3855～3872 | お札3 会報2 色紙14 色紙掛け1 ふろしき1 |
| 3877 | 道具箱 | 292・225・30 | 引出し 開き戸上段 | 3878～3883 3884～3945 | 三味線コマ6 長明用あしべ糸14 三味線枠模型2 紐飾り1 長唄教本46 三味線用具11 長唄集1 袋4 紙挟み1 紙ヤスリ1 プログラム1 |
| 3718 | 鏡台 | 248・468・895 | 右引出し 中引出し 左上引出し 左下引出し | 3970～3990 3991～4004 4007～4022 4005～4006 | 備8 髪留め2 櫛入れ2 手鏡2 コンパクト1 パフ3 ポマードケース2 糸切り鉄1 缶1 手緒3 ケース2 髪飾り2 櫛1 簪2 鏡1 ハンカチ1 その他2 ヘアピン61 髪留め11 髪飾り1 コンパクト1 ゴム紐1 紙袋1 プローチ1 ヘアピン容器1 化粧品サンプル1 その他1 |
| 4038 | 引出し | 245・18・72 | | 4039～4068 | 髪飾り3 香水サンプル4 時計4 時計バンド4 硬貨5 飾りテープ10 眼鏡ケース2 絵馬1 耳かき1 巾着2 パッチ2 プローチ2 バックル1 その他8 |

| | | | | |
|-------|--------|--------------|-------------|--|
| 12132 | 下駄箱 | 370・865・1010 | 12155～12196 | 草履19 下駄9 爪皮1 下駄カバー1 スリッパ1 靴クリムム2 日傘2 蛇の目傘4 番傘1 |
| | 小引出し | | B466～561 | 絨芯2 男物帯1 帯揚げ止め1 帯板2 帯締め7 帯枕4 金具と糸4 腰紐15 室内履き4 ソックス4 ソックス足袋7 足袋37 手袋1 羽織紐2 紐8 前掛け13 子ども用着物紐2 水筒の紐1 |
| | 衣装籠 | | B562～570 | 和服用コート2 ネグリジエ1 ワンピース1 半纏1 ちゃんちゃんこ1 袋3 |
| | 紙袋 | | B653～678 | 風呂敷29 袋3 |
| | ダンボール箱 | | B1633～1738 | バッグ7 袋12 風呂敷16 はぎれ33 匂い袋7 足袋3 肌着3 ハンドタオル3 カーディガン2 女物長襦袢2 ソックス3 フックカバー3 スーツ1 和服用コート1 トレナー2 手拭い2 スエットスーツ1 その他8 |
| | ダンボール箱 | | B1958～1997 | バッグ13 カバン2 袋5 暖簾布6 ワンピース5 帽子2 カーディガン、セーター、ベストボレロ、前掛け、ひっぱり、財布、紐各1 |
| | 不明 | | B2232～2289 | のれん6 バッグ5 カバン6 ネットタイ6 紐4 布3 ネットレス3 ハンカチ2 風呂敷2 手拭い2 着物カバー1 バッグ用布9 その他13 |

表4 各部屋の収納用具とその中身 ハシリモトの収納

| 収集番号 | 資料名 | 法量 (mm) | 収納場所 | 収集番号 | 収納品 |
|------|--------------|-------------|------|-----------|---|
| 1508 | 引出し付き ケース | 1508・435・20 | | 1509～1515 | ワカメ1 昆布2 鰹節2 お茶パック1 海藻1 |
| 1551 | 食器入れ | 360・260・340 | | 1552～1560 | 小皿4 皿2 鉢2 スプーン1 玉杓子1 土瓶2 |
| 2810 | 膳 | 275・307・215 | 引出し | 2813～2810 | 箸7 箸1 入れ歯1 |
| | 作りつけの水屋 | | | | 空き缶8 網杓子6 縁起物19 大皿10 大鉢5 玉杓子9 お櫃7 お札34 角皿9 角鉢5 籠11 片口10 カップ17 家庭洗剤6 乾麺12 キッチンペーパー50 急須14 経木55 金属容器7 ぐい飲み11 グラス23 コースター13 小皿75 小鉢67 菜箸7 皿63 笊21 椀9 杓子12 杓文字5 スプーン18 栓抜き6 竹製容器10 竹50 樽4 茶托15 茶碗18 調味料入れ8 猪口51 ティーカップ12 徳利12 土鍋16 鍋敷き8 井4 箸41 箸置き51 鉢43 瓶9 フォーク8 蓋付き容器41 蓋付き瓶8 蓋物21 紅鉢9 蓋14 包丁9 巻き簀6 丸皿9 銘々皿5 湯飲み66 楊枝36 レンゲ6 割り箸63 箸34 その他467 |

表5 各部屋の収納用具とその中身 地下室

| 収集番号 | 資料名 | 法量 (mm) | 収納場所 | 収集番号 | 収納品 |
|----------------------|------------------|-------------|------|-------------|---|
| 1113 (地下室 入り口) | 下駄箱 | 280・790・116 | | 7718～7763 | 運動靴2 延長コード1 靴7 靴クリーム1 靴中敷き1 下駄4 下駄爪皮1 独楽1 サンダル1 自転車カバー1 自転車ハンドルカバー1 水道管1 石油ストーブ付属品1 草履3 高下駄4 日和下駄3 登山靴1 鼻緒1 婦人用パンプス1 ペンチ1 モンキーレンチ1 わらじ1 その他6 |
| 5266 | ダンボール箱 | 375・270・360 | | 5267～5277 | 灰皿5 急須2 花瓶2 湯飲み5 蓋物2 一輪挿し1 |
| 11026 | 缶 | 280・220・55 | | 11027～11038 | ピンセット3 鉢2 ニッパー2 ドライバー1 アイスピック1 ペンチ1 ヤスリ1 リング1 |
| 11084 | 紙箱 | 297・255・110 | | 11039～11100 | 茶碗15 蓋つき茶碗3 |
| 11110 | 紙箱 | 290・380・140 | | 11111～11122 | コップ13 ガラス製鉢5 灰皿1 すり下ろし器1 皿1 蓋1 |
| 11208 | プラスチック製 衣装ケース | 410・700・205 | | 11209～11288 | ガラス玉43 ボタン26 クリップ84 ビーズ多数 置物4 鈴4 食器6 調理関係6 花瓶4 人形類4 ボタン26 絵はがき9 筆記具4 物差し4 コイン7 面2 その他51 |
| 11291 | ダンボール箱 | 325・165・265 | | 11292～11378 | 雑誌85 本2 |
| 11379 | トランク | 155・464・355 | | 11380～11430 | 切り抜き989 手紙101 オレンジカード25 案内状43 ハガキ56 封筒14 メモ10 カタログ5 テレビ番組関係書類24 パンフレット6 じおり8 本5 和紙見本帳4 その他9 |
| 11431 | 抜き刷りの 入った袋 | 215・240・98 | | 11431～11483 | 写真133 抜き刷り28 礼状30 コピー5 手紙4 アルバム3 ハガキ3 雑誌1 ガラ1 支払い明細書1 |
| 11531 | ダンボール箱 | 283・340・113 | | 11532～11548 | 貝殻83 おはじき類36 石ころ13 鈴4 タグ4 人形3 独楽3 その他4 |
| 11549 | ダンボール箱 | 275・282・270 | | 11550～11565 | 灰皿5 花器2 向こう鉢5 水差し1 置物1 皿1 置き石1 湯飲み1 醤油差し1 マグカップ1 蚊取り線香立て1 |
| 11567 | ダンボール箱 | 280・350・280 | | 11568～11734 | 雑誌167 (「ひととき」) |
| 11787 | 籠 | φ215・70 | | 11788～11799 | 置物5 独楽3 くるみ割り1 スプーン1 チャイム1 茶筌1 玩具1 |
| 11809 | 籠 | φ205・115 | | 11810～11825 | 置物10 鈴7 独楽2 飾り物3 絵馬1 人形1 ペンダントトップ1 |
| 11835 | 三つ足の壺 | φ150・150 | | 11836～11840 | 人形2 置物2 指人形1 |
| 11875 | 缶 | 240・240・120 | | 11876～11892 | お猪口9 小鉢6 ぐい飲み3 壺2 煎茶茶碗1 |
| 11893 | 缶 | 240・240・83 | | 19894～11897 | 丼の蓋2 蒸茶碗の蓋4 茶碗1 |
| 11898 | 缶 | 240・240・110 | | 19899～11911 | ぐい飲み4 お猪口4 湯飲み4 醤油皿8 |
| 11913 | 道具入れ | 155・300・145 | | 11914～11940 | スプーン33 箸置き11 フォーク9 さじ9 ナイフ6 楊枝4 製氷皿1 成むき器1 |

表 6 各部屋の収納用具とその中身 2 階

| 収集番号 | 資料名 | 法量 (mm) | 収納場所 | 収集番号 | 収納品 |
|------|--------|-------------|--|---|---|
| 1290 | 箆筒 | 795・938・480 | 4 段の引出し別不明 | B2014～2160 | 女物裕羽織 5 女物単羽織 3 女物長着表地 2 女物羽織地 2 女物単襦袢 5 帯 5 帯志 2 男物開襟シャツ 3 男物半ズボン 3 カーター 2 掛け雑紗 6 作業着上衣 10 作業用ズボン 3 ジヤケケット 2 ショール 3 大風呂敷 2 テーブルセンター 5 白衣 3 はぎれ 5 前掛け 25 風呂敷 4 ベレ帽 2 烏打帽子 1 ランニングシャツ 2 着物用布地の部分 9 布 2 羽織裏 朝亮着 軍手 座布団側 作務衣 下穿き ソックス、足袋、匂い袋、ネグリジエ、肌着、半纏、ハンドバッグ、袋、兵児帯、 モンペ、股引、半纏一枚分の布地各 1 |
| 1391 | ミシン | 455・128・955 | 引出し 左引出し 右引出し | 1392～1395 1396～1402 1403～1411 | ミシン糸 2 ポピン 2 ミシン針他 10 ミシン使用方法 3 ミシン油 2 薬瓶 1 雑巾 2 ポピンケース 1 部品 14 糸 16 針セット 1 ポピン 4 ポピンケース 1 ミシンのベルト 1 バイヤステープ 3 刺子 1 糸くず 6 |
| 4201 | 小引出し | 302・300・400 | 1 段目引出し 2 段目引出し 3 段目引出し 4 段目引出し | 4202～4249 4371～4397 4398～4451 4452～4529 4530～4652 | 新聞の切り抜き 346 名刺 227 スクラップ 19 格言集 1 葉 1 メモ 1 レジュメ 1 新聞切り抜き 466 手紙 3 メモ 1 絵はがき 26 写真 8 地図 2 葉 21 ちらし 6 招待券 9 旅行資料 28 その他 22 パンフレット 115 ちらし 12 葉 5 絵はがき 5 チケット 7 案内状 2 案内書 2 時刻表 2 その他 12 |
| 4860 | 金属の箱 | 180・125・50 | 5 段目引出し | 4653～4836 | パンフレット 167 チケット 40 葉 8 ちらし 21 メモ 2 広報誌 2 雑誌 4 原稿下書き 1 著書 2 折願文 1 案内状 1 その他 14 |
| 4869 | 紙箱 | 225・150・38 | | 4861～4868 | 手帳 3 冊子 1 日誌 1 徽章 1 フローチ 1 ボタン 1 |
| 4927 | 紙箱 | 265・105・60 | | 4869～4879 | 鑑札 1 祇立表 1 印章 8 ゴム印 11 |
| 4984 | 封筒 | 250・185 | | 4884～4926 | 封書 38 弔電 3 ハガキ 42 |
| 5178 | ダンボール箱 | 425・290・140 | | 4928～4983 | 封書 17 名刺 17 ハガキ 6 弔電 3 領収書 9 葬儀書類など 7 |
| 7849 | 小物ダンス | 404・298・302 | 1 段目引出し 2 段目引出し 3 段目引出し | 4928～5177 7850～7858 7859 7860～7861 | 名刺 246 領収証 24 配達指示兼受領証 25 葬儀控帳など 9 封書 19 葉書 6 名簿 6 メモ 12 弔電 3 原稿用紙 3 便せん 3 名票下書き 15 その他 21 七宝細工 52 ゼムピン 1 銀延べ棒 3 銀板 7 指輪番型 1 針金 3 釘 32 取り扱い説明書 1 アクセサリー用金具類 28 アクセサリー用金具類 12 カタログ 23 |

| | | | | | |
|-------|--------|-------------|------------------|------------------------|---|
| 7849 | 小物ダンス | 404・298・302 | 4段目引出し 5段目引出し | 7862～7863 7869 | コンドーム23 七宝船葉45 接着剤5 彫金用鋳40 工具セット1 |
| 7910 | 紙箱 | 220・203・63 | | 7894～7955 | 写真242 ネガ2 パンフレット1 ラベル1 紙袋2 |
| 7967 | 衣装箱 | 365・480・75 | | 7961～7866 | ワンピース2 ツーピース1 アンダーズカート1 靴下1 はぎれ1 |
| 7968 | 衣装箱 | 370・460・80 | | 7969～7977 | ワンピース1 ワンピース4 スカート4 コート1 |
| 7979 | 衣装箱 | 360・510・100 | | 7980～8004 | 和紙10 目録13 短冊8 天皇関係9 包み紙10 感謝状3 色紙3 護符2 熨斗2 浄瑠璃大会プログラム2 色紙3 八寸2 謡曲本筆写の一部2 盆、地蔵のよたれかけ、写真、受領証、米飯、聖典、卒業証書各1 |
| 8005 | 紙箱 | 430・563・60 | | 8006～8012 | 見本きれ23 本26 白い紙29 色画用紙24 台紙2 染め紙6 レリーフ紙1 |
| 8013 | 米入れ用缶 | 388・257・348 | | 8014～8020 | 柄7 紙袋1 すり切り棒1 洗い桶1 |
| 8022 | ダンボール箱 | 345・475・190 | | 8023～8065 | 新聞切り抜き162 ハガキ160 掲載記事40 出金伝票45 執筆依頼状11 コピー7 パンフ12 折り紙離5 釣書4 型紙3 絵馬3 資料2 その他14 |
| 8136 | 仕出し用箱 | 665・387・115 | | 8126～8146 | ガラス鉢23 グラス30 ガラス小皿6 小鉢1 |
| 8147 | ダンボール箱 | 462・320・240 | | 8148～8171 | 爪楊枝入れ5 パターケース2 お絞り入れ4 ボール2 湯飲み3 計量スプーンセット1 その他11 |
| 8183 | 木製物置台 | 300・235・40 | | 8184～8194 | 鉛筆62 筆記用具10 小物6 水滴1 ベーパーナイフ1 ホッチキス1 ペーパーナイフ1 眼鏡2 サングラス1 化粧小物立て1 フェキキ欄1 |
| 8195 | 籐製物入れ | 220・295・233 | | 8196～8206 | スタンピング2 眼鏡立て1 洋服ブラシ1 ヘアブラシ1 墨液1 朱の油1 接着剤剝離液1 置物1 羽子板型装飾品1 使途不明品2 物置台?1 |
| 8207 | 小物ダンス | 225・187・120 | 上段 下段 | 8208～8214 8215～8217 | 写真19 はがきなど14 絵はがき2 算盤1 扇子1 献立表1 メガネチェーン1 封書17 現金書留封筒3 ハガキ1 |
| 8227 | 引出し | 370・380・140 | | 8218～8251 | 写真74 鉛筆80 小箱6 ハンカチ7 テープルセンター2 彫刻刀5 腕輪4 香水3 小のれん1 小物入れ1 財布1 扇子1 チェーン1 手拭い1 ハンカチ1 |
| 8255 | ダンボール箱 | 292・450・230 | | 8256～8322 | ハガキ112 封書65 手紙159 和紙41 封筒15 ラベル23 パンフ5 ちらし16 絵7 値札5 ネガ5 案内状5 令状5 筒12 コピー5 包装紙5 原稿2 その他35 |
| 8373 | 木箱 | 800・535・400 | | 8374～8405 | 雛人形10 雛道具76 雛飾り44 テープルクロス1 カーテン1 |
| 8674 | 引出し | 370・380・140 | | 8675～8688 | ミニチュア茶器6 雛人形2 人形3 かご2 アイロン1 空気入れ1 その他5 |
| 11941 | 仕出し用箱 | 385・675・135 | | 11942 | 弁当箱お重10 |
| 11943 | 仕出し用箱 | 390・660・135 | | 11944 | 飯茶碗29 |

| | | | | |
|-------|--------|----------------------------|-------------|--|
| 11945 | 仕出し用箱 | 387・668・114 | 11947～11949 | 木箱2 田楽容器II 竹串30 |
| 11950 | 仕出し用箱 | 387・666・115 | 11952～11957 | 飯糰3 飯杓子9 盆4 欄袴5 |
| 11958 | 仕出し用箱 | 387・664・116 | 11960 | 提重6 |
| 12143 | 乱れ篋 | 340・767・117 | B2290～2303 | 編み物3 毛糸玉35 かざ針2 真綿6 |
| 12144 | 衣装箱 | 420・830・220 | B2186～2200 | 男物長襦袢1 男物長着2 男物羽織3 女物長着2 男物袴1 男物羽織紐1 風呂敷1 布1 |
| | 紙袋 | 395・318・115 272・298・128 | 7664～7680 | 独楽1 絵馬4 えびす飾り31 |
| | ダンボール箱 | 233・312・157 | 7683～7709 | 福鈴231 鈴約100 ピース約100 指輪54 名刺42 和紙37 鈴の束3 切手3 編み棒4 紙箱3 ワイヤーの束II その他14 |
| | ダンボール箱 | 301・365・115 | 7420～7425 | 台帳6 |
| | ダンボール箱 | 314・377・255 | 7420～7618 | SPレコード18 映像テープ1 絵本11 往復葉書3 折れ針10 絵画19 看板2 企画趣意書1 原稿割付票1 校正刷り10 コースター5 執筆依頼状1 写真550 写真フィルム23 祝電11 新聞60 新聞切り抜き6 吸い取り紙2 掃除機破産袋5 台帳6 短冊11 手紙43 電報4 ハガキ260 文箱3 ペーシ構成表1 名簿44 メモ8 ランチannonマケット7 レザー8 レザー紐6 割付メモ2 割付用紙5 その他33 |
| | 紙箱 | 275・318・58 | 6757～6759 | 色紙6 クリスマスカード6 封筒1 |
| | 紙箱 | 290・365・84 | 7042～7192 | 写真352 葉書102 賀状152 手紙22 旅の記録書類など34 地図2 ちらし2 メモ2 その他7 |
| | 紙箱 | 260・255・35 | 7487～7501 | SPレコード18 |
| | 紙箱 | 240・252・41 | 6949～6964 | 写真223 カメラ使用説明書1 |
| | 紙箱 | 240・330・66 | 6784～6809 | 写真171 |

表7 各部屋の収納用具とその中身 不明

| 収集番号 | 資料名 | 法量 (mm) | 収納場所 | 収集番号 | 収納品 |
|-------|-----------------------------|--------------|--------|------------------------|--|
| | | | 1段目引出し | 9840～9897 | 電機スタンド2 鏡(仕切り板、糸切りバサミ入り)1 裁縫箱(糸、針、ハサミ、メモ、タグ、こはぜ、ボタンなど332点入り) |
| | 不明(ハギレダ ンスに入ってい たとある) | | 2段目引出し | 9806～9823 | 石鹸3 歯磨き用具3 化粧品7 手鏡1 財布1 ティッシュ1 シッカロール1 |
| | | | 3段目引出し | 9824～9839 | うちわ1 袋1 マッチ1 襦紙入れ1 財布2 楊枝入れ2 マッサージ器1 裁縫箱1 喫煙具9(缶入り) |
| | | | 4段目引出し | 9908～9919 | 盆5 木箱1 鏡1 箱の蓋1 缶(本5、鍵1、墨絵21入り) |
| | | | 5段目引出し | 9898～9907 | 紐8 針8 化粧刷毛10 石鹸入れ1 ペンダント1 空き缶1 体重計1 |
| | | | 上左引出し | 2171～2200 | スプーン50 フォーク9 へら11 箸2 ワインオープナー1 バターナイフ1 牛乳栓開け1 金属部品2 |
| 2068 | 食器棚 | 410・1676・915 | 中央引出し | 2226～2227 | 箸2 |
| | | | 上左 | 2201～2217 | スプーン11 はけ1 金属部品1 紙袋1 鯨皮1 箸置き7 腹斗袋11 箸7 巻きす1 牛乳栓開け1 紙2 |
| | | | 上中央 | 2218～2225 2228～2241 | 箸23 箸箱2 ローソク1 |
| | | | 上右 | 2242～2275 | 神龕1 ナイフ1 盃など28 取って1 折敷2 皿2 楊枝入れ1 かわらけ4 杓文字1 箸置き2 竹串19 箸7 |
| 4154 | 柳行李 | 580・400・240 | | 4155～4165 | SPレコード9 フィルムレコード用下敷き2 紙袋1 |
| 4166 | 柳行李 | 600・400・230 | | 4167～4168 | 薬の棒1 書籍1 |
| 1416 | 蓋付き籠 | 503・425 | | 1417～1420 | 笊1 坏1 花器1 籠1 |
| 12095 | 木箱 | 282・383・124 | | 12096～12127 | 人形11 置物14 ミニチュア6 型人形1 こけし1 |
| 12146 | 文具箱 | 305・250・70 | | B2304～2324 | 縫い糸53 ミシン糸5 刺繍糸66 |
| | ダンボール箱 | | | B2161～2185 | 男物長襟料1 女物利服コート2 男物利服コート1 女物浴衣3 男物浴衣1 裾よけ5 女物縮袴4 女物羽織2 女物寝間着1 帯1 ショール2 マフラー1 |